



営農NEWS



イチゴのハダニ類の発生が増加しています

圃場の発生状況をよく観察し、防除を徹底してください

病害虫速報No.7（県病害虫防除所 2月6日発表）によりますと、1月下旬現在、県内9地点のイチゴ調査圃場におけるハダニ類の被害葉率（本年 34.6%、平年 9.7%）は平年より高く、寄生葉率（本年 16.7%、平年 10.8%）、被害発生地点率（本年 67%、平年 49%）は平年よりやや高い状況です。

また、11月以降、ハダニ類による寄生葉率は増加して、平年より高く推移し、被害葉の発生地点率も高く推移して12月から1月にかけて増加していることより、防除の徹底を呼びかけています。

【防除のポイント】

- 1) 新葉の展開にともなって、生育への影響がない程度に古葉を順次除去すると、ハダニ類の発生抑制に有効です。
- 2) 発生を確認したら、早期に薬剤防除を実施してください。この場合、葉裏や下葉にもよくかかるよう株全体を洗い流すように散布しましょう。なお、葉かき後は薬液がかかりやすいため、薬剤防除に適しています。
- 3) 使用薬剤について、交配用ミツバチや天敵昆虫を導入している圃場ではカブリダニ類などへの影響を確認してください。
- 4) 薬剤抵抗性の発生を抑制するため、気門封鎖剤を除き同一系統薬剤の連用は避けてください。また、化学合成薬剤の効果が低下している場合は、気門封鎖剤をローテーション薬剤として組み入れることも有効です。

表1 イチゴ ハダニ類の主な防除薬剤（平成26年2月10日現在）

系統	薬剤名	希釈倍率	使用時期／使用回数	ミツバチへの影響日数
I	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	2日
	コロマイト水和剤	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	1日
II	スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	—
	ダニサラバフロアブル	1,000倍	収穫前日まで／2回以内	1日
III	マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで／2回以内	1日
IV	カネマイトフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで／1回	□
気門封鎖	アカリタッチ乳剤	1,000～3,000倍	収穫前日まで／—	—
	サンクリスタル乳剤	300～600倍	収穫前日まで／—	—

注1) 表中のミツバチへの影響日数は、茨城県病害虫防除指針（平成25年版）より抜粋しました。これはあくまでも目安で、□：影響がほとんどなく翌日に導入可、1日：24時間は影響して散布2日後に導入可などです。なお、天候、施設内の環境条件（温度、換気等）により日数の前後することがありますので注意が必要です。また、—は指針に記載なしです。

注2) 気門封鎖剤の利用上の注意点

- ① 薬剤により、散布するとマルチの汚れや果実に薬害を生じることがあるため、各薬剤の特性をよく確認して使用してください。
- ② 気門封鎖剤は、直接ハダニ類にかからないと防除効果がないため、株全体に十分量の薬液を丁寧に散布してください。
- ③ ハダニ類の成虫には有効ですが、卵には十分な効果がありませんので、残った卵からふ化した成虫を防除するためには5～7日間隔で数回散布してください。

農薬を使用する際には、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040